

ちば中小企業元気戦略の概要

元気戦略策定の背景・趣旨（第1章）

○ 時代の潮流に対応した新たな中小企業活性化の必要性

人口の減少、少子高齢化、経済のグローバル化、規制緩和など中小企業経営を取り巻く環境変化の中で、中小企業がこの変化を好機と捉え、活性化に向けた取組を進めていく環境づくりを、地域社会の担い手である産学官民が連携協力し、地域を挙げて作り出すことが必要。

○ 中小企業の活性化と地域の活性化の好循環の実現

人口減少、市場縮小の中では、中小企業の活性化はまちづくりと一体的に行い、地域の活性化と中小企業の活性化が好循環、相乗効果を生み出すことが重要。

元気戦略の基本理念（第2章）

○ 中小企業が地域において果たしている役割と重要性の再認識

中小企業は、地域住民の生活を支え、まちづくりを担い、多様な雇用の場を提供するなど、地域経済の基盤として重要な役割を果たしており、中小企業の活性化が地域の活性化に不可欠であることを再認識する必要がある。

○ 元気な中小企業を生み出すための5つの視点

～産学官民が連携して、長期的に取り組む基本的な方向～

1 中小企業の自発的な挑戦を促進

環境変化に対応した新たな事業展開、経営の革新を促進する。

2 多様な地域づくりと中小企業活性化の相乗効果の発揮

中小企業の活性化が地域の活性化に結びつき、その結果、中小企業の経営環境が改善するという好循環、相乗効果を生むような地域づくりを進める。

3 中小企業間、産学官民の連携による取組の促進

中小企業間の連携による経営資源の強化。地域の担い手である産学官民の連携協力の下、県、市町村は「地域経営の充実」、民間企業は「地域貢献の充実強化」、大学は「地域との連携強化」を進める。

4 経営資源の不足する中小企業の経営基盤の強化

資金をはじめ、中小企業に必要な経営資源の確保に配慮する。

5 中小企業を支える人材の確保、育成

中小企業の人材の確保、育成に向けた環境整備を進める。

中小企業の活性化に向けた取組方向（第3章）

地域勉強会における意見から、中小企業が現在抱え、解決すべき課題を次の12項目に整理し、基本的な施策の方向を明示した。（代表的な施策を記載）

- 1 **経営革新の促進** ～経営革新企業の掘り起しから、計画作成、販路開拓などのフォローアップまで、個別、継続的な対応～
- 2 **創業及び再生支援** ～創業時の計画作成から創業後の資金支援やトライアル購入などによる販路開拓等までの個別支援～
- 3 **事業承継の円滑化** ～事業承継に関する個別企業の具体的な課題に対応～
- 4 **中小企業の海外展開支援** ～海外見本市への出展支援等～
- 5 **地域づくり、まちづくりと連携した中小企業の活性化** ～地域資源を活用した新ビジネス創出支援、大型店の地域貢献による地域商業との共生を進めるための取組、大学との連携促進等～
- 6 **経済発展とバランスをとった規制、規制緩和の取組** ～中小企業の事業展開に有効な規制緩和、規制改革を進める仕組みづくり～
- 7 **技術力の向上、企業連携の促進** ～産業支援技術研究所、東葛テクノプラザによる研究開発の支援、知的財産の活用等～
- 8 **中小企業のIT（情報通信技術）利活用の促進** ～企業の経営課題に応じたITの利活用を支援～
- 9 **資金調達の円滑化** ～利用しやすい融資制度の確立や不動産担保や第三者保証人に依存しない融資など中小企業の資金供給を円滑化～
- 10 **官公需の促進** ～地域ブランド認定やトライアル購入で技術力ある企業の参入を拡大～
- 11 **相談・支援機関、機能の充実** ～支援機関の連携、商工会等の合併・広域連携による機能強化～
- 12 **人材確保・人材育成** ～ジョブカフェちば、ちば仕事プラザ事業による人材確保の支援等～

元気戦略を確実に実行していくための方策（第4章）

- 中小企業振興を図るための条例の制定
- 千葉新産業振興戦略、ちばしごと・雇用創出プランとのリンク
経済活性化に向けた県の基本戦略として、相互に連携しながら施策を展開する。
- 戦略展開の評価
進捗状況の評価点検を行う組織の設置、PDCAサイクルの確立
- 中小企業の現状を迅速に把握する仕組みの構築
調査分析力の強化、現場ニーズを把握するための「地域勉強会」の実施
- 中小企業元気戦略の定期的な見直し ～ 概ね3年ごとに見直しを実施